2014/11/18 第41期 経営計画発表会を開催致しました。

開催日：平成26年11月15日
場所：ホテルサンルート栃木

多数の来賓の方にお越し頂きまして「第41期 経営計画発表会」を開催致しました。

栃木アンカー工業(株)（荒金憲一代表取締役）は15日、
栃木市内のホテルサンルート栃木で「第41期経営計画発表会」を開催した。

同社社員をはじめ、満川元久AIS総合設計(株)取締役会長、高田光浩ケーブルテレビ㈱代表取締役、
金融機関などの関係者ら多くの来賓を含めて70人が参加。
荒金社長が将来を見据えて策定した経営計画書を示すとともに、
各事業部の代表者が事業部方針を発表。
全社員が経営計画書の内容を実践し、社業発展に全力を尽くしていくことを誓った。

発表会では、はじめに吉岡昌彦リニューアル事業部水戸営業所長が開会を宣言。
荒金社長自ら作成した経営計画書を発表した。
荒金社長は「41期からは新たな発想が重要だ。お客様の喜び、幸せを提供することが至上命題。
社員が仕事を通じて成長し、そして我が社が伸びることで地域に深く、長く、力強く貢献できる」と断言。
「100周年に向かって、二度とない人生だからさわやかに生きようをテーマに会社を発展させていく」と決意を披露した。

また荒金社長は
「40周年は50周年への通過点に過ぎない」と指摘し、
社員一人ひとりが価値を高め、お客様第一主義を貫くことの重要性を改めて強調。
経営計画書の内容を2時間にわたって解説した

来賓の満川会長は、「時代を読んで先手を打つ荒金社長の経営哲学は、私の指針であり、
終始一貫変わらない顧客第一主義の姿勢にいつも感服している。
荒金社長が社員を見守る姿勢がにじむ経営計画書の発表を機に
さらに栃木アンカー工業が発展することを願う」とあいさつした。

群馬銀行の斉藤秀之栃木支店長、㈱奈良屋の小野寺正洋代表取締役、
エイヴィ開発㈱の木村忠昭代表取締役、栃木銀行の竹石敏一栃木西支店長からも
荒金社長の優れた経営手腕と先見性に期待する言葉が贈られた。

続いてリニューアル事業部の青木紀郎取締役副社長、アンカー事業部の河野二三男常務取締役、
改良土事業部の荒金啓将常務取締役がそれぞれの事業部の方針を発表。

最後にリニューアル事業部栃木営業所の辻口弘和氏が社員決意を表明した。

発表会後は懇親パーティーに移行。
採用内定者の紹介、優秀社員・事業所表彰などの後、
芝浦工業大学の本橋健司教授の音頭で乾杯。
ビンゴゲームなどが催され、社員や関係者が絆を深めた。

平成26年11月18日　日本工業経済新聞　記事より

ビンゴゲームでご来賓の方々より頂きましたチケット代に当社よりお祝い金を加え、
地域に根差す企業として栃木市に寄付予定です。

２０１３年１２月１８日『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。

栃木アンカー工業㈱は１２月１８日、『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。
寄付額は２２５，０００円になります。

栃木アンカー工業㈱寄附活動履歴（抜粋）

『市民協働まちづくりファンド』への寄附

No	寄付年月日	内訳	金額

1	平成18年4月3日	栃木アンカー工業株式会社	¥224,235
2	平成18年7月4日	栃木アンカー工業株式会社　社員一同	¥176,700
3	平成19年2月19日	栃木アンカー工業株式会社	¥301,800
4	平成19年6月30日	栃木アンカー工業株式会社	¥425,000
5	平成20年1月25日	栃木アンカー工業株式会社　社員一同	¥96,500
6	平成20年5月30日	栃木アンカー工業株式会社	¥297,224
7	平成20年10月28日	栃木アンカー工業株式会社　社員一同	¥124,493
8	平成21年12月15日	栃木アンカー工業株式会社　社員一同	¥126,465
9	平成22年6月25日	栃木アンカー工業株式会社	¥100,000
10	平成22年12月27日	栃木アンカー工業株式会社	¥131,500
11	平成23年5月11日	栃木アンカー工業株式会社	¥189,636
12	平成24年4月12日	栃木アンカー工業株式会社	¥230,000
13	平成24年9月18日	栃木アンカー工業株式会社	¥232,100
14	平成25年4月12日	栃木アンカー工業株式会社	¥221,500
15	平成25年12月18日	栃木アンカー工業株式会社	¥225,000
	合計	15口	¥3,102,153

2013.11.19 第40期 経営計画発表会を開催致しました。

開催日：平成25年11月16日
場所：ホテルサンルート栃木

多数の来賓の方にお越し頂きまして「第40期 経営計画発表会」を開催致しました。

栃木アンカー工業(株)（荒金憲一代表取締役）は16日、栃木市内のホテルサンルート栃木で「第40期経営計画発表会」を開催した。

同社社員をはじめ、佐々木宏幸(株)荒井設計代表取締役、
高田光浩ケーブルテレビ(株)代表取締役、金融機関などの関係者ら多くの来賓を含め約70人が参加。
荒金社長が将来を見据えて策定した経営計画書を示すとともに、各事業部の代表者が事業部方針を発表。
全社員が経営計画書の内容を実践し、会社の発展に力を尽くしていくことを確認した。

発表会では、はじめに久米仁史アンカー事業部札幌営業所長が開会を宣言し、全員で君が代を斉唱。
荒金社長が来賓一人ひとりを自身とのエピソードを交えながら紹介した後、自らの叡智と魂を刻み込んで作成した経営計画書を発表した。

荒金社長は
「かねてから2013年は大きな流れの変化が起きると予測していた年」と述べ、将来展望を披露。
「この経営計画書を全社員がバイブルとして達成することが生き残れる勝ち組、つまり価値のある企業に入るための最終仕上げになる」と説明。

「経済の大津波にのみ込まれないよう将来を見据えて手を打っている。
天地がひっくり返ろうとも私はひたすら社員の幸福と会社の発展を願って進む」と語り、経営計画書の内容を約2時間にわたって解説した。

来賓の佐々木社長は
「荒金社長は会うといつも経営の哲学を教えてくれる兄のような存在。40期続くこの素晴らしい経営計画書を持った会社は少なく、社員の皆さん本当に幸せだ」
と祝辞を披露。

群馬銀行の鈴木睦栃木支店長、(株)藤屋の滝澤尚二代表取締役、(株)中藏の青木義照代表取締役会長、荒金社長が会長を務めるケーブルテレビの高田代表取締役からも荒金社長の優れた経営手腕や先見性に期待する言葉が贈られた。

続いてリニューアル事業部の青木紀朗専務取締役、アンカー事業部の河野二三男常務取締役、改良土事業部の荒金啓将常務取締役がそれぞれの事業部方針を発表。
最後に菅原浩アンカー事業部研究学園都市営業所長が社員決意を表明した。

発表会後には懇親パーティが行われ、採用予定内定者、優秀社員表彰などの後、芝浦工業大学の本橋健司教授の音頭で乾杯。
満川元久㈱鈴木公共建築設計監理事務所代表取締役社長らも駆け付け、満川社長夫人の恵さん、荒金社長夫人の恵実子さんへの花束贈呈、ビンゴゲームなどが催され盛会となった。

平成24年11月20日　日本工業経済新聞　記事より

ビンゴゲームでご来賓の方々より頂きましたチケット代に当社よりお祝い金を加え、地域に根差す企業として栃木市に寄付予定です。

2013.4.13　２０１３年４月１２日　『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。

栃木アンカー工業㈱は１２日、市民の公益的な活動などに使われる市の市民協働まちづくりファンドに２２万１５００円を寄付した。
同社には市から感謝状が贈られた。

同社は「幸せのお裾分け」を合言葉に、社員全員が自主的に寄付した浄財を２００６年から市に寄せている。
同ファンドへの寄付は１４回目で、総額は２８７万円を超える。

この日、荒金社長らが市役所を訪れ
「わたしたちの気持ちです。市民活動推進のためにお使い下さい」と述べ、鈴木俊美市長に寄付金を手渡した。

鈴木市長は「いつもありがとうございます。有効に活用させていただきます」とお礼の言葉を述べた。

平成２５年４月１３日　下野新聞　掲載記事より

募金をする様になったのは

当社の募金の基本は『幸せのお裾分け』

①自分の周りが幸せにならないで、自分一人が幸せになる事はない。
②自分の会社の周りが汚くて、自分の会社だけキレイでいられる訳がない。
③自分達が頑張れた時や運の良い時には、その幸せをお裾分けする事が、大切と思う。

１）私達の会社に
平成１１年に栃木県の学校の先生の教育実習受入
平成１３年に栃木市役所３部署の課長以上の人教育受入、及び部下の方の教育
平成１４年郵便局長及び管理者受入教育
平成１８年度から栃木市市役所民間研修受け入れ
（１人３ヶ月×１０人＝３年間）

２）受け入れの考え方
受入は共に学び共に成長する事だけど、
どちらかというと受け入れる側は、教えるという立場になりやすい為、それを戒める為と、地域と共に生きる為にはどうするかを社員と話し、市役所等に協力する為には、会社と社員は何をすればいいかという事を討論した。
それは募金だねという事で、会社及び社員、又、ある時は協力業者やお客様にご協力を願い、人にものを教えるという事と、自己成長と感謝の気持ちを募金に沿えました。

栃木アンカー工業株式会社
代表取締役　荒金　憲一

栃木アンカー工業㈱寄附活動履歴

１．『市民協働まちづくりファンド』への寄附

No	寄付年月日	内訳	金額
1	平成18年4月3日	栃木アンカー工業株式会社	¥224,235
2	平成18年7月4日	栃木アンカー工業株式会社　社員一同	¥176,700
3	平成19年2月19日	栃木アンカー工業株式会社	¥301,800
4	平成19年6月30日	栃木アンカー工業株式会社	¥425,000

5	平成20年1月25日	栃木**アンカー**工業株式会社　社員一同	¥96,500
6	平成20年5月30日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥297,224
7	平成20年10月28日	栃木**アンカー**工業株式会社　社員一同	¥124,493
8	平成21年12月15日	栃木**アンカー**工業株式会社　社員一同	¥126,465
9	平成22年6月25日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥100,000
10	平成22年12月27日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥131,500
11	平成23年5月11日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥189,636
12	平成24年4月12日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥230,000
13	平成24年9月18日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥232,100
14	平成25年4月12日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥221,500
	合計	14口	¥2,877,153

２．『市政振興寄与』への寄附

No	寄付年月日	内訳	金額
1	平成20年11月10日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥269,000
	合計	1口	¥269,000

３．『東北地方太平洋沖地震に伴う被災者支援』義援金への寄附

No	寄付年月日	内訳	金額
1	平成23年5月11日	栃木**アンカー**工業株式会社	¥500,000
	合計	1口	¥500,000

4．栃木市への寄附合計

回数	合計寄附額
16	¥3,646,153

5．その他の寄付

No	寄付年月日	内訳	金額
1	平成21年11月30日	日本赤十字事業資金	¥10,000
2	平成22年3月18日	学校法人　常盤大学	¥20,000
3	平成22年12月27日	学校法人　群馬育英学園	¥10,000
4	平成23年11月7日	日本赤十字事業資金	¥10,000
5	平成24年11月5日	日本赤十字事業資金	¥10,000
	合計	5口	¥60,000

6．栃木県への寄附

No	寄付年月日	内訳	金額
1	平成23年3月28日	東北地方太平洋沖地震被災者支援義援金 『**とちまる**募金』	¥1,500,000
2	平成23年8月8日	東北地方太平洋沖地震被災者支援義援金 『**とちまる**募金』	¥22,231
	合計	2口	¥1,522,231

7．寄附総合計

回数	総合計寄附額
23	¥5,228,384

2013.4.1 平成25年度　入社式

栃木アンカー工業株式会社 平成25年度 入社式を平成25年4月1日に開催致しました。

今年もパワー溢れる新人が入社致しました。
『入社式の社長のお言葉』

どんなに良い物でも、どんなに技術があろうとも、
お客様に買って頂かないと意味が無く、
お客様に好かれる為の努力をする事が大切だ。

今の時代は
どんなに辛くとも
嘘をついたり
人をだましたりしてはいけない
嘘をついた人や企業は
一時的に利が出ても
何も身に付かない
嘘は必ず暴露する

正々の旗　堂々の陣を張り
ただただ嘘を付かず、真摯に生き
お客様の事を一心に想いながら
我社は進む
それが私の人生　私の生き方
社員も同じ船に乗って
真剣にオールを漕いでくれる事を
信じて

①アベノミクス　２％の成長するかどうかは、消費税の増税に影響する。

②今後３年間で株式は８，０００円上がり、１６，５００円になるだろう。

また物価が１．５倍になる。しかし、給料はそこまであがらない。
参議院選前には１４，５００円になる可能性が大きい。

③もし昭和元年に生まれたら男は絶対に兵隊にならなくてはいけない。
昭和２１年以後に生まれたら兵隊にならなくても良い。

④韓国と北朝鮮は臨戦状態にある。
いつ戦争が起こってもおかしくない。

⑤観光地として海外から人を呼ぶには、信号や標識、
その他外国語で表記するなど受け入れる準備や決意が必要。

⑥中国は公害により、環境問題に注目してみると
⇒エコカーに力を入れるが電気自動車は売れない。なぜか？
⇒中国は領土広い為、充電スタンド設置などの問題が浮上。
⇒その結果、中国ではハイブリットカーが売れるだろう。

⑦無形の心を動かすのは十の言葉
１．叶を１日１０回、１年で３，６５０回唱える。
２．私は運が良い、１日１０回、１年で３６０回。
３．私は良い出会いをする、１日１０回、１年で３，６５０回。

⑧成果＝努力×能力×考え方・価値観
努力・能力が「プラス」であっても、考え方が「マイナス」では成果は「マイナス」になる。

⑨東日本大震災の際、指導者が正しい判断をした所はすぐに避難して生き残ったが、
指導者がすぐに判断しなかった所は津波に飲まれて多くの犠牲を出した。

⑩嘘をつかない明るい社員の集う会社にする。

⑪ホスピタリティを大切にする。（募金や寄付・ボランティアなど）

仕事とは
事に仕える

スイスの哲学者の言葉として
仕事はまずやってみること
今日やれる事は今日やる

明日にずらす事は相手に迷惑を掛ける
今あなたは帰社時間かも
お客様のお客様はお昼かも（海外）
今あなたが３０分間残業すれば
お客様のお客様は今日中に仕事ができる
明日になって仕事をすれば
お客様のお客様は明後日になるかもしれない
また明日は無いかも知れない
明日は病気になるか、事故になるか
死ぬかもの危険性をはらんでいる
伸びる人は今日中に終わらせる事を
心掛けている人
「明日でいいですか」という言葉はやめよう。
仕事とは
例：秘書は社長が元気で働ける補佐をする仕事

平成25年度 新入社員の一言意気込みメッセージです！

＊大栗道子…会社にとって必要とされる社員になるよう頑張ります。

＊大笹臣人…即戦力になれるようにしたいです。

＊國井優哉…まずは仕事になじみ、早く栃木アンカー工業㈱の一員になっていきます。

＊齋藤拓磨…何事にも全力で挑戦したいです。

＊辰野記子…大きな声で元気な挨拶をします。

＊直井綾香…笑顔を忘れる事なく、日々成長して行きます。

＊長瀬靖佳…栃木アンカー工業㈱の一員として、明るく元気に笑顔で全力で頑張ります。

＊野中信吾…新社会人として、フレッシュに全力で頑張ります。

＊橋本　聡…社会人のマナーや礼儀を覚えて、夢を叶えるため努力します。

以上１０名が栃木アンカー工業㈱の目標を達成する同志となりました。

2012.11.15　２０１２年１１月５日　『日本赤十字社事業資金』へ寄付を行いました。

栃木アンカー工業㈱は１１月５日、『日本赤十字事業資金』へ寄付を行いました。
寄付額は１０，０００円になります。

2012.9.18　２０１２年９月１８日　『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。

栃木アンカー工業㈱は９月１８日、『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。
寄付額は２３２，１００円になります。

2012.9.18　２０１２年４月１２日　『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を

行いました。

栃木アンカー工業㈱は４月１２日、
『市民協働まちづくりファンド』へ寄付を行いました。
寄付額は２３０，０００円になります。

2012.6.25　パンの缶詰「救缶鳥」の備蓄を始めました

救缶鳥プロジェクトは、非常食を備えることで、
世界の飢餓救済の活動に参加できるプロジェクトになります。

「救缶鳥」は、３年間賞味期限のうち２年間は手元で備蓄し、残り約１年の賞味期限の間に回収・輸送され、飢餓に苦しむ国々へ届けられます。
そして当社の購入したパンも２年間備蓄された分は、、
義援物資として世界の飢餓に苦しむ人々を救う為に届けられる日が来ます！！

●「救缶鳥」は、今までに色々な国や地域に送られています。

過去の主な義援先

・シンバブエ飢餓義援
・新潟県中越地震被災地
・スマトラ沖地震被災地
・フィリピン・ミンドロ島洪水被害地
・岩手・宮城内陸地震で奥州市など
・台湾の台風豪雨被災地
ほか

2012.1.16　栃木アンカー工業㈱は創業以来思いやり集団をめざし、お客様第一主義をつらぬき30年以上前から地域の絆を大切に社会貢献を行っています。

民間派遣研修受け入れ指導　活動履歴

No	日　時	研修内容	人数
1	平成11年	岩舟町立静和小学校　職員	2人
		佐野市立南中学校　職員	
2	平成12年	栃木県立栃木商業高校　職員	1人
3	平成13年	栃木県立小山北桜高等学校　職員	1人
4	平成13年	栃木市役所 研修（前期）	3人
5	平成13年	足利市立足利第二中学校　職員	1人
6	平成13年	栃木市役所 研修（後期）	3人
7	平成14年	栃木郵便局　職員（前期）	8人
8	平成14年	壬生町立壬生北小学校　職員	2人
		栃木県立栃木養護学校　職員	
9	平成14年	栃木郵便局　職員（後期）	8人
10	平成15年	栃木県立佐野松陽高等学校　職員	3人
		栃木県立栃木女子高等学校　職員	
		小山市立間々田小学校　職員	
11	平成18年	栃木市役所　職員　(1人3ヶ月)	3人
12	平成19年	栃木市役所　職員　(1人3ヶ月)	3人
13	平成20年	栃木市役所　職員　(1人3ヶ月)	3人
14	平成21年	栃木市役所　職員　(3ヶ月)	1人
計			42人

講演会　活動履歴

No	日　時	講演内容	人数
1	昭和58年	経営計画の進め方（大阪市）	約350人
2	昭和60年	経営計画の活用術（沖縄県）	約80人
3	昭和63年	秋の邦楽定期演奏会（栃木市）	約1300人
4	平成7年	社長が行う経営戦略（東京都）	約130人
5	平成8年	経営者の営業戦略（東京都）	約200人
6	平成14年	郵便局長会会議（栃木県）	約30人
7	平成16年	社長のためのセールス革命（東京都）	約800人
8	平成16年	小山市校長会の講話会（栃木県）	約70人
9	平成17年	栃木県中学校産業教育振興会研修会（栃木県）	約60人
10	平成17年	環境・リサイクル分野進出セミナー（栃木県）	約90人
11	平成19年	栃木市・民間企業派遣研修報告会（栃木県）	約130人

その他多数